



新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

巳年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。巳年といえば蛇。蛇という字から蛇行という言葉が連想されました。

みやぎ街道交流会が活動の対象としている道も川も、かつては蛇行しているのが普通でした。蛇行した川はあちこちに淀みをつくり、そこには小鮒がたくさん集まり子ども達の格好の釣り場となっていました。川沿いの道は曲がりくねった砂利道で、よく小石を蹴りながら学校に通ったものでした。目を閉じるとかつての懐かしい風景がよみがえります。しかし、今故郷に帰っても、その風景はもうありません。

高度成長期以降、道路や河川の改修や耕地整理が進み、高速道路やバイパスなどができたおかげで、交通の利便性や農業の生産性が飛躍的に高まりました。しかし、川の多くは直線的に改修され、川底と兩岸の3面がコンクリートとなり、淀みや小鮒の姿は見あたりません。蓋がかけられて、川が流れていることさえも分からないところもあります。道路は広く直線的に改修され、アスファルトで舗装されて、猛スピードで走る車が怖くて小石で遊びながら通学することはできなくなりました。また、高速道路やバイパスなどの新たな道ができたことで道筋や川筋も大きく変わってしまいました。

こうした変化により、以前に比べて古い時代の街道や水上交通などの探索は格段に難しくなったと言っても過言ではありません。かつての道や川は至る所で広い道路や整然と区画された水田の下になり、峠道は放棄されて灌木に閉ざされてしまいました。私自身、長い間古代の東山道を探し求めています。未だに手がかりさえ掴めません。

蛇行した川は流れを緩やかにし、鉄砲水のような水流を和らげると言います。曲がりくねった道も通過に時間はかかりますが、それなりの風情があります。私たちみやぎ街道交流会も、蛇行した川や道のように、急がずあせらず、あちこちに寄り道して出会った仲間との交流を深めながら、ゆっくりと長く活動を続けていきたいものです。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成 25 年正月

会長 白鳥良一



《図書紹介》 河北選書『地名は知っていた 津波被災地を歩く(上・下)』太宰幸子著(各巻 840 円)

東日本大震災の被災調査を1年半続け、宮城県内140箇所について掲載しており、マスコミ等報道にない地区の実態が分かります。被災前の豊富な調査結果とも対比しており、地名学の視点からだけではなく、地誌としても貴重な書と云えます。また、被災地の人々に寄り添う優しい会話とともに、復興に向けた歩みも紹介されており、悲しみと希望の涙が溢れました。是非、地図を片手に読むことをお勧めします。



【事務局より】

新年号は、会長の年頭ごあいさつ、昨秋開催の「史跡のまち再生事業『多賀城碑のなぞを探る』」と「第8回羽州街道交流会上山大会」のイベント報告といたしました。紙面の都合上要旨となりましたので、詳細はそれぞれのホーム

ページをご覧頂きたいと思います。

これからも内容に充実に向けて参りますので、今年もよろしくお願いいたします。

なお、会員の皆様の投稿をお待ちしておりますので、事務局までお願いいたします。(やま)



〒980-0014

仙台市青葉区本町1-13-32 オートビル2F

TEL: 022-722-3380 FAX: 022-722-3381

Mail to: miyagi-kaidou@auone.jp

史跡のまち再生事業「多賀城碑のなぞを探る！」レポート

設立 20 周年を迎えた「多賀城市史跡案内サークル」の記念事業として、みやぎ街道交流会も支援し、史跡のまち再生事業「多賀城碑のなぞを探る！」を平成 24 年 12 月 1～2 日に開催しました。未だに謎の多い“多賀城碑”について、「謎」の解明に幅広く参加してもらうことにより、多賀城碑の真髄に迫り、多賀城碑の存在意義や歴史背景を知るきっかけとなることを目的にするとともに、多賀城の復興まちづくりの一助になることを期待するものです。

内容についての写真レポートは下記のとおりです。詳細については、会員の皆様には報告書を送付するとともに、みやぎ街道交流会ホームページに 1 月末までに掲載いたしますのでご覧ください。 [みやぎ街道](#) [検索](#)

◆ オープニングセレモニー



祝辞(多賀城市長)

◆ 作文入選者の発表会と大賞・優秀賞を決定



入選者の作文発表



表彰式



講評(白鳥会長)

◆ 記念講演会『多賀城跡—近年の新たな成果—』



講師: 佐藤多賀城跡調査研究所 所長

◆ 交流会(街道談義)



会場: キリンビヤポート仙台

◆ 多賀城跡やその周辺を巡る探訪ウォーク(12月2日)



Aコース



Bコース



Cコース

Aコース: 古代多賀城跡の史跡を巡る
Bコース: 歌枕の地(奥の細道)を訪れる
Cコース: 多賀城跡近傍の神社を巡る
※多賀城市史跡案内サークル
メンバーによる案内

第8回羽州街道交流会 上山大会レポート

羽州街道交流会の第8回大会が平成24年11月17～18日に上山市で開催されました。オープニングは、上山藩鼓笛楽(上山市指定無形文化財)の演奏ではじまり、主催者、来賓と次回開催の青森県黒石市の代表の挨拶がありました。

基調講演は、正木晃氏(宗教学者、慶応義塾大学文学部・立正大学仏教学部非常勤講師)により、「沢庵禅師と上山」と題して行われました。寛永6年(1629)57歳の時、紫衣事件により大徳寺・妙心寺が弾圧されたことに抗議して上山に流罪となり、許されて江戸に帰る3年間、上山の藩主の土岐山城守に槍術の極意を伝授するなど大きな影響を与えたとのことです。また、あたくあん漬けも伝えたといわれています。

分科会は、第1分科会「街道と上山温泉」、第2分科会「沢庵禅師と上山藩」、第3分科会「たくあんづけと上山の宿文化」のテーマで、主会場の月岡ホテル、上山城、武家屋敷に分かれ活発な意見交換が行われました。

翌 18 日の街道探訪会は、①羽州街道橋下宿と金山越え、②イザベラバードが歩いた道とやまびこ村、③街道と城下町の今昔の3コースで行われました。詳細は羽州街道交流会ホームページをご覧ください。 [羽州街道](#) [検索](#)



上山藩鼓笛楽



基調講演



第2分科会



第3分科会



街道談義



金山峠



武家屋敷「三輪家」



春雨庵「沢庵尊像」